

社会福祉学科

社会福祉コース

3年生

(講義)		科目名:精神保健福祉実習指導Ⅱ		講師: 上松勝二郎	
科目概要・目標	精神保健福祉実習指導Ⅱは、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと精神保健福祉実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。 精神保健福祉実習指導Ⅱでは、ソーシャルワーク基礎実習の実施を軸として、実習実施、また実践に必要な援助技術及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク実習の実施に向けて課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。 精神保健福祉実習指導Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。 ①実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 ②ソーシャルワーク技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 ③記録について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 また、これらの達成を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術を体得し、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得するための基礎を身につける。				
	教科書	『最新精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習(精神専門)』中央法規			
提出課題	レポート設題1	自分が実習を予定(希望)している施設(種別)では、どのような援助が提供されているか具体的に述べよ。			
	学修のポイント1	実習計画の意義について述べよ			
	学修のポイント2	支援計画の作成について述べよ			
	学修のポイント3	ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士について述べよ。			
	学修のポイント4	実習記録ノートの内容について述べよ			
	学修のポイント5	スーパービジョンの意義について述べよ			
	学修のポイント6	評価の意味について述べよ			
期末試験	後日指示				
回数	授業内容				
第1回	精神障害者に関する法制度、社会保障が果たす機能と役割について理解する				
第2回	精神障害者に関する制度の成立過程とその特徴と現在の問題点について				
第3回	実際の事例を通して本科目を学ぶ必要性、制度、サービスについて				
第4回	支援計画の作成について、実習記録ノートの内容について				
第5回	実習計画の意義について				
第6回	ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士について				
第7回	スーパービジョンの意義について				
第8回	相談支援制度についての理解(相談支援の概要)				
第9回	居住支援制度及び就労支援制度について				
第10回	精神障害者の経済的支援について(経済的支援の意義と役割)				
第11回	精神障害者の経済的支援について(所得保障に関わる支援)				
第12回	精神障害者の経済的支援について(経済的負担の軽減)				
第13回	評価の意味について				
第14回	生活困窮者自立支援制度、低所得者対策について				
第15回	期末試験				
第16回	科目終了試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点			
備考					

(講義)		科目名:教養基礎演習Ⅱ		講師: 室山俊浩	
科目概要		本科目では、広く基礎科目を学習することにより、大学卒業程度の深い教養を身につけ、公務員および一般の就職対策や大学院入試などに対応できる、一般教養の学力をつけることをめざす。教養試験の類型は、多くの地方自治体・施設等における採用試験に取り入れられているため、福祉・保育・教育関連の資格職、公務員や地方上級公務員試験対策はもとより、一般の就職採用試験対策にも効果的である。また幅広い教養を身につけられることから、就職以外の進路を考えている学生にとっても有効である。			
教科書		適宜プリントを配布する			
レポート	設題 1	環境問題と環境保護のための取り組みについて述べよ。			
	設題 2				
科目終了試験	学修のポイント1	次の出来事を年代順に並べ替え、どのような出来事か簡単に説明せよ。 (a.南北ベトナムの統一、b.ベルリンの壁の崩壊、c.湾岸戦争、d.昭和天皇の崩御、e.沖縄返還)			
	学修のポイント2	東京が4月3日の午後8時のとき、サンフランシスコ(西経120度)は何日の何時か。理由も説明せよ。			
	学修のポイント3	AB型とAB型の両親から産まれる子どものもつ血液型の確率を血液型ごとに求めなさい。理由も説明する事。			
	学修のポイント4	日本の四季の天気の特徴を説明せよ。			
	学修のポイント5	高さ19.6mからボールを水平に初速度20m/sで投げた時、ボールが地面に着くのは何秒後か。また、ボールは水平方向に何m進むか。それぞれ説明せよ。ただし、重力加速度を9.8m/s ² とする。			
	学修のポイント6	「世界遺産」とは何か説明せよ。また、世界遺産リストに登録されている日本の文化遺産と自然遺産の主なものを1点ずつ取り上げて紹介せよ。さらに、「無形文化遺産」についても説明し、日本の例を1点紹介せよ。			
期末試験		後日発表する			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション / 環境問題について			
第2回		環境保護のための取り組みについて			
第3回		環境問題にどのように取り組むべきか			
第4回		学修のポイント1			
第5回		学修のポイント2			
第6回		学修のポイント3			
第7回		学修のポイント4			
第8回		学修のポイント5			
第9回		学修のポイント6			
第10回		問題演習			
第11回		問題演習			
第12回		問題演習			
第13回		問題演習			
第14回		問題演習			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	持ち込み不可 授業で扱った問題から出題		
	授業内評価	30点	提出物・授業内課題など		
備考		提出物の締切は厳守すること。期限を守れなかった場合は謝罪文を添付して提出すること。授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。無断の座席移動も禁止。			

(講義)		科目名:精神疾患とその治療		講師: 平石 太一	
科目概要・目標	精神医学は、こころの病の学問であるが、最近急速に脳科学との関連性が解明されてきている。その一方で、精神医学を理解するためには、人やこころの理解、人間社会についての知識も不可欠である。患者の生育歴、生活環境、人間関係、心理状態、文化風習など、さまざまな側面を切り離しては、病の本質が見えてこない。 本科目では、精神疾患やこころの在り方の分析・治療の基本を学ぶ。まず脳神経細胞の生理的理論を知り、次に精神医学の概念として疾患の成因や分類について学ぶ。そして代表的な精神疾患である器質性精神障害・認知症・アルコールや薬物による精神や行動の障害・統合失調症・気分障害・神経症性障害などについての知識を獲得し、精神疾患総論(代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む)、向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、医療機関との連携について理解する。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、臨床心理士・公認心理師として医療領域・教育領域で心理的支援を行ってきた講師のもと、カウンセラー業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。				
	教科書	『精神保健福祉士養成セミナー 1 第6版 精神医学 ―精神疾患とその治療―』へるす出版			
	提出課題	レポート設題1	統合失調症の症状、病因、治療、対応(個別での対応、地域での対応、地域精神医療も含む)について述べよ。		
	レポート設題2	気分(感情)障害及び神経症性障害について、それぞれの種類、症状、成因、治療、対応について述べよ。			
	学修のポイント1	統合失調症について			
	学修のポイント2	気分(感情)障害について			
	学修のポイント3	神経症性障害、ストレス関連性障害、心身症について			
	学修のポイント4	認知症、てんかんについて			
	学修のポイント5	地域精神医療について			
	学修のポイント6	精神疾患の身体療法(向精神薬)について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		精神医学の歴史・概念・診断、病院精神医療と地域精神医療			
第2回		統合失調症①			
第3回		統合失調症②			
第4回		気分障害①			
第5回		気分障害②			
第6回		神経症性障害、ストレス関連性障害および身体表現性障害①			
第7回		神経症性障害、ストレス関連性障害および身体表現性障害②			
第8回		前半の復習			
第9回		生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群			
第10回		成人のパーソナリティおよび行動の障害			
第11回		知的障害、心理的発達の障害等			
第12回		器質性精神障害、神経系の疾患			
第13回		精神作用物質使用による精神および行動の障害・精神疾患の治療			
第14回		まとめ			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	授業態度、レポート等により評価する。		
備考		私語等、他の学生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。			

2026年度前期

(講義)		科目名:ソーシャルワークの理論と方法(専門)		講師: 坂本 知謙	
科目概要・目標	本科目は以下のことを目標とし、学修する。 1:精神障害および精神保健福祉の課題に対するソーシャルワークの過程を理解すること。 2:精神障害および精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解すること。 3:精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解すること。 4:精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解すること。 5:個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解すること。 6:精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解すること。				
	教科書	『最新 精神保健福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)』 中央法規			
提出課題	レポート設題1	精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義について述べて			
	レポート設題2	エコロジカルアプローチ及びエンパワメントアプローチについて、実践にどのように活用されているか述べて			
	学修のポイント1	精神障害および精神保健福祉の課題に対するソーシャルワークの過程			
	学修のポイント2	精神障害および精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法について			
	学修のポイント3	精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について			
	学修のポイント4	精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法			
	学修のポイント5	個別支援からソーシャルアクションへの実践展開について			
	学修のポイント6	精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開について			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション及び精神障害および精神保健福祉の課題に対するソーシャルワークの過程			
第2回		精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの基本的視点			
第3回		精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義について			
第4回		レポート作成・指導			
第5回		精神保健分野におけるソーシャルワークの展開技法			
第6回		エコロジカルアプローチ及びエンパワメントアプローチについて			
第7回		レポート作成・指導			
第8回		精神障害および精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法について			
第9回		精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の意義と目的			
第10回		精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について			
第11回		精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法			
第12回		個別支援からソーシャルアクションへの実践展開について			
第13回		精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開について			
第14回		学修ポイント作成・指導			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	20点	提出物の提出状況		
		20点	授業への積極的参加・態度		
備考					

(実技)		科目名:情報処理基礎演習Ⅲ		講師:高橋直子	
科目概要・目標	パワーポイントの使い方を学習する。 特に、図を用いて表現することを学習する。				
教科書		なし(毎回授業で使用するプリントを配布する)			
期末試験		実技試験(パワーポイントで1つの資料を作成し保存する。)			
回数		授業内容			
第1回		パワーポイントの基本			
第2回		いろいろなスライドの作成			
第3回		効果(画面切り替え、アニメーションなど)の利用			
第4回		リンク機能の利用			
第5回		グラフのスライドの作成			
第6回		SmartArt機能を使ったスライドの作成			
第7回		図解のパターンを理解するスライドの作成			
第8回		スライドマスターの利用			
第9回		図解の復習			
第10回		複雑な図解のスライドの作成			
第11回		自由にアレンジしたスライドの作成			
第12回		話の流れを考える			
第13回		復習			
第14回		復習			
第15回		復習(期末試験対策)			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	毎回授業で行う課題作成などを含めた授業態度		
備考		飲食厳禁、私語厳禁、携帯電話などの使用禁止			

(実技)		科目名:レクリエーションワーク		講師:山口榮三	
科目概要・目標	社会福祉の援助技術に関わる課題としてのレクリエーションについて学修する。まず、ライフステージ(幼児・児童・青年・老年・障害者)に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。そして、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション援助の技術(個別・グループ・環境)を、実践を通して身につける。				
	教科書	①レクリエーション支援の理論と方法 楽しさをとおした心の元気づくり 公益財団法人日本レクリエーション協会 レクリエーション・インストラクターテキスト ②各種レク財冊子 ③県内実施の事業 *②③の資料は山口榮三が用意します。			
	期末試験	後日指示			
	回数	授業内容			
	第1回	オリエンテーション レクリエーション(以下「レク」)支援とは/現場実習について 実技体験			
	第2回	レク支援の展開方法(1) 個別及び集団レク支援方法とその実践			
	第3回	レク支援の理論(1) コミュニケーションと信頼関係づくりの理論			
	第4回	レク支援の理論(2) 良好な集団づくりの理論			
	第5回	レク支援の理論(3) 自主的、主体的に楽しむ力を育む理論			
	第6回	レク支援の方法(1) 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ			
	第7回	レク支援の方法(2) 良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング			
	第8回	レク支援の方法(3) 自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法①			
	第9回	レク支援の方法(4) 自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法②			
	第10回	レク支援プログラムの立案 グループ単位でレクプログラムを立案する			
	第11回	レク支援実習① 立案したレクプログラムの支援実習			
	第12回	レク支援実習② 立案したレクプログラムの支援実習			
	第13回	レク支援実習③ 立案したレクプログラムの支援実習			
	第14回	レク支援実習④ 立案したレクプログラムの支援実習			
	第15回	まとめ			
	第16回	期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み:可 論述式		
	授業内評価	30点	支援計画案の提出及びその内容で評価します。		
		10点	本学園におけるルール、マナーにそって、授業を受けていたかどうかで判断します。		
	備考	授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。			

(講義)		科目名:介護概論		講師: 中川尋史	
科目概要・目標	高齢化が進むわが国において、介護を必要とする人々は増加の一途を辿っている。本科目では、介護の概念、対象、理念などの総論を学んだ上で、介護予防、自立に向けた介護、認知症ケア、終末期ケアなどの概要について理解を深める。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、社会福祉士としてそして福祉経営者として地域福祉に従事してきた講師のもと、福祉現場における事例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		一般社団法人日本ソーシャルワーカー教育学校連盟編集「最新社会福祉士養成講座2 高齢者福祉」中央法規 参考文献 福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座第13巻 高齢者に対する支援と介護保険制度」中央法規			
提出課題	レポート設題 1	介護の概念、対象、理念について述べよ。			
	学修のポイント1	介護過程について			
	学修のポイント2	認知症ケアについて			
	学修のポイント3	介護予防について			
	学修のポイント4	自立に向けた介護について			
	学修のポイント5	介護における終末期ケアについて			
	学修のポイント6	高齢者を支援する専門職の連携について			
期末試験		講義内にてお伝えします			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション			
第2回		介護の概念、対象、理念について			
第3回		介護の概念、対象、理念について			
第4回		介護の概念、対象、理念について			
第5回		介護の概念、対象、理念について			
第6回		介護の概念、対象、理念について			
第7回		介護過程について			
第8回		介護過程について			
第9回		介護における終末期ケアについて			
第10回		介護における終末期ケアについて			
第11回		高齢者を支援する専門職の連携について			
第12回		高齢者を支援する専門職の連携について			
第13回		実践事例他			
第14回		実践事例他 期末テストについて			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持込可		
	授業内評価	20点	提出物(学修のポイント3本、下書きレポート、清書レポート)の期限を守ること		
		20点	受講姿勢・居眠り、私語、スマホなどは減点		
備考					

(講義)		科目名:社会心理学		講師: 富田健太	
科目概要・目標		社会心理学は、社会学と心理学との境界領域にあたる分野で、人が他者(自分以外の異質な存在)との関係の中で、人の態度や認知に表れる、様々な特徴を解明することを主なねらいとしている。学修内容としては、他者や社会が個人の態度や認知にどのように影響するか(ハロー効果や社会的促進)や、個人と個人との関係や相互作用(ハイダーの認知的均衡理論やフェスティンガーの認知的不協和理論)などを取り上げる。その他、集団を構成するメンバーの心理、グループダイナミクス、傍観者効果、リーダーシップ、消費行動などについても考察していく。			
教科書		無し			
提出課題	レポート設題1	服従と社会的同調について述べよ			
	学修のポイント1	服従と社会的同調について			
	学修のポイント2	認知的不協和理論について			
	学修のポイント3	類型論と特性論について			
	学修のポイント4	単純接触効果と吊り橋効果について			
	学修のポイント5	購買行動の心理学について			
	学修のポイント6	認知バイアスについて			
期末試験					
回数		授業内容			
第1回		社会心理学とは何か			
第2回		服従と権威について			
第3回		第一印象の心理学			
第4回		購買行動の心理学			
第5回		認知的不協和理論			
第6回		集団心理とSNSの心理			
第7回		コミュニケーションの心理学			
第8回		単純接触効果と吊り橋効果			
第9回		血液型占いとMBTIの心理学			
第10回		行動経済学と社会心理学			
第11回		社会的模倣について			
第12回		社会的スティグマについて			
第13回		援助行動について			
第14回		まとめ・試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	40点	・レポート提出期限を守れた場合は、加点します。 ・備考に書かれているものを守れているか。		
備考		授業には積極的に参加し、理解し考えようとする力・姿勢を身につけてください。 授業中の居眠り、私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。 何度注意しても直らない場合は、受講は認めず退出していただきます。			

(講義)		科目名:家族福祉論		講師: 佐橋寿実	
科目概要・目標		この家族福祉論では、現代の多様化した家族の状況や抱える様々な問題や課題を提示し検討する。また、それらの問題や課題の解決・緩和を遂行するために必要なサービスやアプローチ、ネットワークなどについて学修する。加えて、この科目では、多彩なクライアントの選択や生き方などを尊重し、それらについて理解した上で環境を整え(エンパワメント)、彼らの健康的な領域を発見するとともに強化(ストレングス)し、より望ましい形で支援を提供するにはどのようにすればよいかについて考える力を養い、柔軟な思考や問題や課題ができるように学修する。			
教科書		なし。授業中に適宜紹介する。			
提出課題	レポート設題1	わが国の現代家庭が抱える問題や課題について述べ、その背景となった要因について記述せよ。			
	レポート設題2	少子化を解消するための福祉サービスやプランなどを具体的に挙げ、その効果について検討するとともに、家庭支援や保育所の特別事業などについて注目して、その効果や課題について参考文献などを活用して記述せよ。			
	学修のポイント1	主体的である子どものおかれた状況について把握する。			
	学修のポイント2	DVや虐待などが子どもに及ぼす影響について考察する。			
	学修のポイント3	育児の外部化が子どもや親に及ぼす影響について検討する。			
	学修のポイント4	少子化の進行が社会や国に及ぼす影響について理解を深める。			
	学修のポイント5	家庭支援や子育て支援を行う際に、チームアプローチやネットワーク力が必要不可欠であることを認識する。			
	学修のポイント6	社会資源の充実および開発・人材の育成および配置について把握する。			
期末試験		後日発表する			
回数		授業内容			
第1回		家族とはなにか			
第2回		社会状況の変化からみた家族			
第3回		家族を取り巻く問題①児童虐待			
第4回		家族を取り巻く問題②ドメスティック・バイオレンス			
第5回		家族を取り巻く問題③児童虐待とDVの関係をみる			
第6回		家族を取り巻く問題④離婚とひとり親家庭			
第7回		少子化の現状と課題			
第8回		少子化に関する施策			
第9回		家庭への支援にかかわる法と制度			
第10回		家庭を支援する社会資源と社会福祉施設(1)			
第11回		要保護児童とその家庭支援			
第12回		家庭を支援する社会資源と社会福祉施設(2)			
第13回		ソーシャルワーカーによる家庭支援			
第14回		家族問題を理解するモデル			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み可。論述式。		
	授業内評価	20点	提出物(学修のポイント2本、レポート下書き2本)期限厳守。遅れた場合は減点。		
		20点	授業態度		
備考		参考文献:橋本真紀、山縣文治『よくわかる家庭支援論』ネルヴァ書房			

令和 8年度 前期

(講義)	科目名:福祉教養演習Ⅰ (共通科目)	講師:堀田 利恵
科目概要	本科目は、社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験に合格することを目標とする。共通科目を実施する。	
教科書	「過去問解説集2027」中央法規、「受験ワークブック2027」【共通】中央法規(写し)	
回数	授業内容	
第1回	ガイダンス・医学概論	
第2回	医学概論	
第3回	医学概論 / 確認テスト ①	
第4回	心理学と心理的支援	
第5回	心理学と心理的支援	
第6回	心理学と心理的支援 / 確認テスト ②	
第7回	ソーシャルワークの基盤と専門職	
第8回	ソーシャルワークの基盤と専門職	
第9回	ソーシャルワークの基盤と専門職 / 確認テスト③	
第10回	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	
第11回	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	
第12回	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ / 確認テスト④	
第13回	①～④の総復習テスト (総まとめテスト)	
第14回	社会保障	
第15回	社会保障	
第16回	社会保障/ (期末テスト)	
成績評価	出席率	30点 75%以上の出席を必須とする。
	期末試験	40点 前期末試験
	授業内評価	30点 確認テストなどの取り組みや授業中の発言を評価する。
備考	各科目テキスト解説と「一問一答」⇒「過去問」演習⇒「確認テスト」⇒「科目テスト」の順で行います。	

(実技)		科目名:ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		講師: 森奈祐	
科目概要・目標	この科目では、実習の事前学習として、実際に実習を行う予定の実習分野(利用者理解を含む)と、施設、事業者、機関、団体、地域社会に関する基本的な理解を身につける。スクーリングでは、相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得することを目標とする。実習先と指導教員との指導のもとで実習計画を作成する。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、高齢者や障害者の支援事業所の運営、介護支援専門員業務、社会福祉・精神保健福祉の相談業務を経て、専門学校で福祉・心理科目の授業や実習指導に携わってきた社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理士の講師のもとで、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習(社会専門)』中央法規			
提出課題	レポート設題1	自分が実習を予定(希望)している施設(種別)では、どのような援助が提供されているか具体的に述べてよ。			
	学修のポイント1	ソーシャルワーク実習の仕組みについて			
	学修のポイント2	実習計画の意義について			
	学修のポイント3	支援計画の作成について			
	学修のポイント4	ソーシャルワーカーとしての社会福祉士について			
	学修のポイント5	実習記録の内容について			
	学修のポイント6	評価の意味について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		社会福祉士について、実習計画の意義・作成について			
第2回		配属先実習機関・施設の概要、支援内容について情報収集			
第3回		ソーシャルワーク実習の仕組みについて			
第4回		実習計画の意義について			
第5回		事前訪問の目的と意義について			
第6回		基本的なマナーと訪問時の注意事項について			
第7回		実習記録の内容、書き方、取り扱いについて①			
第8回		実習記録の内容、書き方、取り扱いについて②			
第9回		実習評価の意味について			
第10回		個別支援計画の作成について①			
第11回		個別支援計画の作成について②			
第12回		実習記録の内容、書き方、取り扱いについて③			
第13回		実習中の悩みやトラブルについて			
第14回		実習の実際(多機関連携、権利擁護、支援と評価など)			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	提出課題の理解度・提出期限、授業内での取組姿勢、授業への参加態度について評価		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価、退室、あるいは科目不合格となることがあります。			

(講義)		科目名:ソーシャルワークの理論と方法 I		講師: 森 奈祐	
科目概要・目標	本科目では、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。特に、ソーシャルワーク実践に不可欠なソーシャルワークプロセス(相談援助の展開過程)と、様々な実践モデル及びアプローチについての理解を軸に、その過程において必要とされる面接技術や記録技術を学修し、ケアマネジメントや集団を活用した支援、コミュニティワーク等の理論と展開方法、スーパービジョンやコンサルテーションの専門知識と技術についての理解を深める。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、高齢者や障害者の支援事業所の運営、介護支援専門員業務、社会福祉・精神保健福祉の相談業務を経て、専門学校で福祉・心理科目の授業や実習指導に携わってきた社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理士の講師のもとで、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
	教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法』中央法規			
提出課題	レポート設 題1	ソーシャルワークにおける、人と環境との交互作用に関する視点と理論について述べよ。			
	レポート設 題2	ソーシャルワークの展開過程と各段階の特徴、ソーシャルワーカーの役割について述べよ。			
	学修のポイント1	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて、それぞれの対象と目的、方法について述べよ。			
	学修のポイント2	ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて、それぞれの考え方と方法、特徴を述べよ。			
	学修のポイント3	ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について述べよ。			
	学修のポイント4	グループワークの概念とその展開方法をまとめ、実際の事例をもとにグループの意義とソーシャルワーカーの役割について述べよ。			
	学修のポイント5	ソーシャルワークにおける面接の意義と目的・技法について説明した上で、ソーシャルワーカーに求められる専門的態度について述べよ。			
	学修のポイント6	ソーシャルワークにおけるスーパービジョンの意義と目的、課題について述べよ。			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク①			
第2回		人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク②			
第3回		ソーシャルワークの過程①			
第4回		ソーシャルワークの過程②			
第5回		ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ			
第6回		ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク			
第7回		ソーシャルワークの面接			
第8回		ソーシャルワークの記録			
第9回		スーパービジョンとコンサルテーション			
第10回		ケアマネジメント(ケースマネジメント)			
第11回		グループを活用した支援			
第12回		コミュニティワーク			
第13回		ソーシャルアドミニストレーション			
第14回		ソーシャルアクション			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	提出課題の理解度・提出期限、授業内での取組姿勢、授業への参加態度について評価		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。			

(演習)		科目名:ソーシャルワーク演習Ⅳ		講師: 戎弘志	
科目概要・目標	ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。				
	ソーシャルワーク演習Ⅳでは、実践モデルやアプローチに関して事例をもとにその内容を検討するとともに、今までに学習した内容を総合的に学習し理解を深めます。具体的には、ソーシャルワークに関する理論やアプローチを事例などを通して修得します。また地域の特性や課題を適切に把握し、課題を解決するための理論と技術について、やはり事例を用いて実践的に理解を深めます。				
	ソーシャルワーク演習Ⅳが終了した時点で下記の学習目標を達成することが期待される。				
	1)ソーシャルワークに関する理論やアプローチの特徴やポイントについて、明瞭な説明をすることができる。				
	2)事例等を通して、理論やアプローチの実践をイメージすることができる。				
	3)グループ活動や他者との意見交換などを通して自己の思考を整理し、発表することができる。				
	4)地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足)				
	当科目は、障害者施設や特別養護老人ホームの施設長を経て、長年にわたりソーシャルワークの実習指導に携わってきた社会福祉士の講師のもと、福祉現場における事例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
	教科書		一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習(社会専門)』中央法規		
提出課題	レポート設題1	地域における課題の解消と軽減に向け、必要なアプローチの方法について述べよ			
	学修のポイント1	生活モデルについて			
	学修のポイント2	問題解決アプローチについて			
	学修のポイント3	行動変容アプローチについて			
	学修のポイント4	ナラティブアプローチについて			
	学修のポイント5	地域福祉課題の把握と計画の作成について			
	学修のポイント6	地域福祉課題の解決に向けた取り組みについて			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション(ソーシャルワーク演習Ⅴのねらいと解説)			
第2回		スーパービジョンの方法(個人のスーパービジョンについて)			
第3回		ケースカンファレンスの方法(ケース報告の振り返り)			
第4回		事例研究(1)			
第5回		事例研究(2)			
第6回		事例研究(3)			
第7回		事例研究(1)(2)(3)での専門知識及び技術を考察する			
第8回		事例研究(4)			
第9回		事例研究(5)			
第10回		事例研究(6)			
第11回		自らの実習経験と学んだ専門知識及び技術を考察する			
第12回		事例研究(9)			
第13回		事例研究(10)			
第14回		まとめ(報告事例について専門知識及び技術を振り返る)			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	50点			
	授業内評価	20点	授業への積極的参加とポイント課題の内容と提出状況		
備考					

(講義)		科目名:教養演習Ⅰ(進路ガイダンスを含む)		講師:室山俊浩 仁井田 和也	
科目概要・目標	外部講師の話を聞くことで、就職活動についての意識を高めていく。 公務員試験や能力試験対策として問題演習を行う。				
教科書		配布資料を基に学習を進める			
期末試験		後日連絡			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション			
第2回		問題演習			
第3回		ジモト就活について			
第4回		問題演習			
第5回		就労支援事業について			
第6回		就職活動について			
第7回		キャリアシームーツ 学内企業説明会			
第8回		問題演習			
第9回		法人等による出張授業			
第10回		問題演習			
第11回		法人等による出張授業			
第12回		問題演習			
第13回		法人等による出張授業			
第14回		問題演習			
第15回		問題演習			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	授業で扱った問題から出題。持ち込み不可。		
	授業内評価	30点	授業態度、グループワーク等への参加・発言・積極性、提出物の内容、提出期限を評価		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。			

(演習)		科目名:精神保健福祉演習Ⅱ		講師 上松勝二郎 田本佳寿美		
科目概要・目標	精神保健福祉演習Ⅱは、ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱにおいて、「ソーシャルワークの基礎」「ソーシャルワークの展開」を学んだ後に位置づけられる科目で、精神保健福祉演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと連続して学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。 精神保健福祉演習Ⅱは、精神保健福祉援助の事例(集団に対する事例を含む。)を活用し、精神保健及び精神障害者に関する法律、障害者基本法、また障害者総合支援法をはじめとする各種法制度の運用について実践的に学習する。また精神保健福祉援助の事例(集団に対する事例を含む。)を用いて、医療機関、障害福祉サービス事業や行政機関等、関連する専門職について実践的に学ぶ。さらに、すべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する方法を学ぶ。 精神保健福祉演習Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。 ①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。 ②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。					
	教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク学校教育連携編集 『最新精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習(精神専門)』中央法規				
	提出課題	レポート設題1	本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際に必要な要素について述べよ。			
		学修のポイント1	精神科医療機関で働く精神保健福祉士として理解しておくべき 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律のポイントを述べよ。			
学修のポイント2		障害者総合支援法について述べよ。				
学修のポイント3		介護保険法について述べよ。				
学修のポイント4		障害者虐待防止法について述べよ。				
学修のポイント5		医療観察法について述べよ。				
学修のポイント6		障害者雇用促進法について述べよ。				
期末試験	後日指示					
回数	授業内容					
第1回	オリエンテーション・学習目標・個人の役割等					
第2回	医療機関における事例①ケースワーク・グループワーク					
第3回	医療機関における事例②関連法の理解					
第4回	障害サービス事業所における事例(地域生活支援等)					
第5回	障害サービス事業所における事例(障害者総合支援法の理解)					
第6回	行政機関における事例(障害者差別・虐待等)					
第7回	行政機関における事例(生活保護・年金制度等)					
第8回	司法分野における事例(医療観察法の理解)					
第9回	産業・労働分野の事例(職場ストレス・リワーク・就労等)					
第10回	高齢者福祉施設における事例(関連法の理解)					
第11回	児童分野における事例い(虐待を中心としたケースワーク)					
第12回	各依存症に対しての事例(アルコール・ギャンブルの予防・回復)					
第13回	各依存症に対しての事例(薬物依存を中心に)					
第14回	自殺対策に関する事例(現状・対策について)					
第15回	期末試験					
第16回	科目終了試験					
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。			
	期末試験	40点				
	授業内評価	30点				
備考						

(講義)		科目名:社会調査法		講師: 田辺 則人	
科目概要・目標		本科目 は、国が定める社会福祉士および精神保健福祉士の養成カリキュラムにおける「社会福祉調査の基礎」に対応するものである。本科目 では、社会調査および社会福祉調査の基礎的事項を学習するが、社会福祉調査は社会福祉領域での社会調査のことであるため、本 科目 の内容の多くの部分は社会調査に関するものとなる。本 科目 を学習 することにより、社会調査の重要性、世の中に氾濫する社会調査の真実や問題点、社会福祉領域における社会調査の活用法について把握することが可能となる。			
教科書		『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 5 社会福祉調査の基礎』中央法規			
提出課題	レポート設題1	社会調査 および社会福祉調査 の性格についてまとめた上で、量的調査(統計調査)と質的調査(事例調査)の相違について述べよ。			
	学修のポイント1	社会調査における倫理と個人情報保護について			
	学修のポイント2	全数調査と標本調査の特徴および標本抽出法について			
	学修のポイント3	質問紙の作成方法と留意点について			
	学修のポイント4	質問紙の配布と回収の方法について			
	学修のポイント5	質的調査のデータ収集法について			
	学修のポイント6	質的調査における記録の方法と留意点について			
期末試験		後日連絡する			
回数		授業内容			
第1回		＜調査とは・社会福祉における調査の必要性と意義＞オリエンテーション／社会福祉と調査			
第2回		調査の重要性とその種類・枠組み			
第3回		調査計画の策定、レポートの書き方について			
第4回		＜量的調査の方法と留意点＞量的調査の方法とその特徴について			
第5回		アンケート調査の実施			
第6回		調査票作成上の注意点について			
第7回		量的調査によるデータ解析とデータサイエンス			
第8回		作表・作図による分析に立ち戻る			
第9回		＜質的調査の方法と留意点＞質的調査の方法とその特徴について			
第10回		ヒアリング調査の実施			
第11回		量的調査と質的調査の特徴の比較/レポート作成のこつ			
第12回		社会調査における倫理と個人情報保護			
第13回		ワークショップの企画と試行			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	後日連絡する。		
	授業内評価	30点	提出物(学修のポイント3本、下書きレポート・清書レポート・課題レポート)の提出状況。		
		10点	ワークショップの姿勢、授業態度(私語、居眠り等は厳禁)。		
備考		遅刻、欠席、私語、居眠り、スマートフォン使用は認めた場合以外は厳禁。			

社会福祉学科

心理学コース

3年生

(講義)		科目名:精神保健福祉実習指導Ⅱ		講師: 上松勝二郎	
科目概要・目標	精神保健福祉実習指導Ⅱは、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと精神保健福祉実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。 精神保健福祉実習指導Ⅱでは、ソーシャルワーク基礎実習の実施を軸として、実習実施、また実践に必要な援助技術及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク実習の実施に向けて課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。 精神保健福祉実習指導Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。 ①実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 ②ソーシャルワーク技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 ③記録について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 また、これらの達成を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術を体得し、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得するための基礎を身につける。				
	教科書		『最新精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習(精神専門)』中央法規		
	提出課題	レポート設題1	自分が実習を予定(希望)している施設(種別)では、どのような援助が提供されているか具体的に述べよ。		
		学修のポイント1	実習計画の意義について述べよ		
		学修のポイント2	支援計画の作成について述べよ		
学修のポイント3		ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士について述べよ。			
学修のポイント4		実習記録ノートの内容について述べよ			
学修のポイント5		スーパービジョンの意義について述べよ			
	学修のポイント6	評価の意味について述べよ			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		精神障害者に関する法制度、社会保障が果たす機能と役割について理解する			
第2回		精神障害者に関する制度の成立過程とその特徴と現在の問題点について			
第3回		実際の事例を通して本科目を学ぶ必要性、制度、サービスについて			
第4回		支援計画の作成について、実習記録ノートの内容について			
第5回		実習計画の意義について			
第6回		ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士について			
第7回		スーパービジョンの意義について			
第8回		相談支援制度についての理解(相談支援の概要)			
第9回		居住支援制度及び就労支援制度について			
第10回		精神障害者の経済的支援について(経済的支援の意義と役割)			
第11回		精神障害者の経済的支援について(所得保障に関わる支援)			
第12回		精神障害者の経済的支援について(経済的負担の軽減)			
第13回		評価の意味について			
第14回		生活困窮者自立支援制度、低所得者対策について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点			
備考					

(講義)		科目名:教養基礎演習Ⅱ		講師: 室山俊浩	
科目概要		本科目では、広く基礎科目を学習することにより、大学卒業程度の深い教養を身につけ、公務員および一般の就職対策や大学院入試などに対応できる、一般教養の学力をつけることをめざす。教養試験の類型は、多くの地方自治体・施設等における採用試験に取り入れられているため、福祉・保育・教育関連の資格職、公務員や地方上級公務員試験対策はもとより、一般の就職採用試験対策にも効果的である。また幅広い教養を身につけられることから、就職以外の進路を考えている学生にとっても有効である。			
教科書		適宜プリントを配布する			
レポート	設題 1	環境問題と環境保護のための取り組みについて述べよ。			
	設題 2				
科目終了試験	学修のポイント1	次の出来事を年代順に並べ替え、どのような出来事が簡単に説明せよ。 (a.南北ベトナムの統一、b.ベルリンの壁の崩壊、c.湾岸戦争、d.昭和天皇の崩御、e.沖縄返還)			
	学修のポイント2	東京が4月3日の午後8時のとき、サンフランシスコ(西経120度)は何日の何時か。理由も説明せよ。			
	学修のポイント3	AB型とAB型の両親から産まれる子どものもつ血液型の確率を血液型ごとに求めなさい。理由も説明する事。			
	学修のポイント4	日本の四季の天気の特徴を説明せよ。			
	学修のポイント5	高さ19.6mからボールを水平に初速度20m/sで投げた時、ボールが地面に着くのは何秒後か。また、ボールは水平方向に何m進むか。それぞれ説明せよ。ただし、重力加速度を9.8m/s ² とする。			
	学修のポイント6	「世界遺産」とは何か説明せよ。また、世界遺産リストに登録されている日本の文化遺産と自然遺産の主なものを1点ずつ取り上げて紹介せよ。さらに、「無形文化遺産」についても説明し、日本の例を1点紹介せよ。			
期末試験		後日発表する			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション / 環境問題について			
第2回		環境保護のための取り組みについて			
第3回		環境問題にどのように取り組むべきか			
第4回		学修のポイント1			
第5回		学修のポイント2			
第6回		学修のポイント3			
第7回		学修のポイント4			
第8回		学修のポイント5			
第9回		学修のポイント6			
第10回		問題演習			
第11回		問題演習			
第12回		問題演習			
第13回		問題演習			
第14回		問題演習			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	持ち込み不可 授業で扱った問題から出題		
	授業内評価	30点	提出物・授業内課題など		
備考		提出物の締切は厳守すること。期限を守れなかった場合は謝罪文を添付して提出すること。授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。無断の座席移動も禁止。			

(講義)		科目名:精神疾患とその治療		講師: 平石 太一	
科目概要・目標	精神医学は、こころの病の学問であるが、最近急速に脳科学との関連性が解明されてきている。その一方で、精神医学を理解するためには、人やこころの理解、人間社会についての知識も不可欠である。患者の生育歴、生活環境、人間関係、心理状態、文化風習など、さまざまな側面を切り離しては、病の本質が見えてこない。 本科目では、精神疾患やこころの在り方の分析・治療の基本を学ぶ。まず脳神経細胞の生理的理論を知り、次に精神医学の概念として疾患の成因や分類について学ぶ。そして代表的な精神疾患である器質性精神障害・認知症・アルコールや薬物による精神や行動の障害・統合失調症・気分障害・神経症性障害などについての知識を獲得し、精神疾患総論(代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む)、向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、医療機関との連携について理解する。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、臨床心理士・公認心理師として医療領域・教育領域で心理的支援を行ってきた講師のもと、カウンセラー業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。				
	教科書	『精神保健福祉士養成セミナー 1 第6版 精神医学 ―精神疾患とその治療―』へるす出版			
提出課題	レポート設題1	統合失調症の症状、病因、治療、対応(個別での対応、地域での対応、地域精神医療も含む)について述べよ。			
	レポート設題2	気分(感情)障害及び神経症性障害について、それぞれの種類、症状、成因、治療、対応について述べよ。			
	学修のポイント1	統合失調症について			
	学修のポイント2	気分(感情)障害について			
	学修のポイント3	神経症性障害、ストレス関連性障害、心身症について			
	学修のポイント4	認知症、てんかんについて			
	学修のポイント5	地域精神医療について			
	学修のポイント6	精神疾患の身体療法(向精神薬)について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		精神医学の歴史・概念・診断、病院精神医療と地域精神医療			
第2回		統合失調症①			
第3回		統合失調症②			
第4回		気分障害①			
第5回		気分障害②			
第6回		神経症性障害、ストレス関連性障害および身体表現性障害①			
第7回		神経症性障害、ストレス関連性障害および身体表現性障害②			
第8回		前半の復習			
第9回		生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群			
第10回		成人のパーソナリティおよび行動の障害			
第11回		知的障害、心理的発達の障害等			
第12回		器質性精神障害、神経系の疾患			
第13回		精神作用物質使用による精神および行動の障害・精神疾患の治療			
第14回		まとめ			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	授業態度、レポート等により評価する。		
備考		私語等、他の学生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。			

(講義)		科目名：心理学的支援法(心理療法) (教育・保育は「心理療法概説」)		講師：平石太一	
科目概要・目標		理療法の理論は、40を超えるものがあり、変転進歩しつつある領域である。その中でも広く実践されているものとして、精神分析的療法、クライエント中心療法、行動療法、認知行動療法、家族療法、芸術療法、森田療法、内観療法、集団心理療法などの考え方を学ぶ。それぞれの理論や定石を知ること、目前の個人に即応するよう工夫し、クライエントの資質や周りの資源の力を生かせるような援助を可能にするために、それぞれのアプローチに関する効用と限界に関する理解を深める。事例論文を読み、ディスカッションを通して実践的な理解を図る。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、臨床心理士・公認心理師として医療領域・教育領域で心理的支援を行ってきた講師のもと、カウンセラー業務を通じた実例を交え、心理の実践的な知識を学ぶ。			
教科書		『基礎から学ぶ心理療法』 矢澤美香子編 ナカニシヤ出版			
提出課題	レポート設題1	各種の心理療法の中から、3つの心理療法を取り上げて、それぞれについて論述せよ。 〈ポイント〉それぞれの技法について、治療のねらい、その対象者、治療法などについて述べ、その効用と限界について考察する。			
	学修のポイント1	心理療法の構造について			
	学修のポイント2	精神分析の治療について			
	学修のポイント3	カウンセラーの3条件(中核3条件について)			
	学修のポイント4	認知療法における「認知」について			
	学修のポイント5	日本で生まれた心理療法について			
	学修のポイント6	家族療法の考え方について			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション 心理療法の構造Ⅰ			
第2回		心理療法の構造Ⅱ			
第3回		代表的な心理療法			
第4回		クライエント中心療法			
第5回		解決志向アプローチ			
第6回		認知行動療法			
第7回		日本の心理療法			
第8回		興味のある心理療法			
第9回		芸術療法Ⅰ			
第10回		芸術療法Ⅱ			
第11回		家族療法			
第12回		心理療法の実際			
第13回		専門家と当事者			
第14回		まとめ			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	授業態度、レポート内容等を評価対象とする。		
備考		他の学生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。			

(講義)		科目名:ソーシャルワークの理論と方法(専門)		講師: 坂本 知謙	
科目概要・目標	本科目は以下のことを目標とし、学修する。 1:精神障害および精神保健福祉の課題に対するソーシャルワークの過程を理解すること。 2:精神障害および精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解すること。 3:精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解すること。 4:精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解すること。 5:個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解すること。 6:精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解すること。				
	教科書	『最新 精神保健福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)』 中央法規			
提出課題	レポート設題1	精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義について述べよ			
	レポート設題2	エコロジカルアプローチ及びエンパワメントアプローチについて、実践にどのように活用されているか述べよ			
	学修のポイント1	精神障害および精神保健福祉の課題に対するソーシャルワークの過程			
	学修のポイント2	精神障害および精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関⽢と家族への支援方法について			
	学修のポイント3	精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について			
	学修のポイント4	精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法			
	学修のポイント5	個別支援からソーシャルアクションへの実践展開について			
	学修のポイント6	精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開について			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション及び精神障害および精神保健福祉の課題に対するソーシャルワークの過程			
第2回		精神保健福祉分野におけソーシャルワークの基本的視点			
第3回		精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義について			
第4回		レポート作成・指導			
第5回		精神保健分野におけるソーシャルワークの展開技法			
第6回		エコロジカルアプローチ及びエンパワメントアプローチについて			
第7回		レポート作成・指導			
第8回		精神障害および精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関⽢と家族への支援方法について			
第9回		精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の意義と目的			
第10回		精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について			
第11回		精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法			
第12回		個別支援からソーシャルアクションへの実践展開について			
第13回		精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開について			
第14回		学修ポイント作成・指導			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	20点	提出物の提出状況		
		20点	授業への積極的参加・態度		
備考					

(実技)		科目名:情報処理基礎演習Ⅲ		講師:高橋直子	
科目概要・目標	パワーポイントの使い方を学習する。 特に、図を用いて表現することを学習する。				
教科書		なし(毎回授業で使用するプリントを配布する)			
期末試験		実技試験(パワーポイントで1つの資料を作成し保存する。)			
回数		授業内容			
第1回		パワーポイントの基本			
第2回		いろいろなスライドの作成			
第3回		効果(画面切り替え、アニメーションなど)の利用			
第4回		リンク機能の利用			
第5回		グラフのスライドの作成			
第6回		SmartArt機能を使ったスライドの作成			
第7回		図解のパターンを理解するスライドの作成			
第8回		スライドマスターの利用			
第9回		図解の復習			
第10回		複雑な図解のスライドの作成			
第11回		自由にアレンジしたスライドの作成			
第12回		話の流れを考える			
第13回		復習			
第14回		復習			
第15回		復習(期末試験対策)			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	毎回授業で行う課題作成などを含めた授業態度		
備考		飲食厳禁、私語厳禁、携帯電話などの使用禁止			

(実技)		科目名:レクリエーションワーク		講師:山口榮三	
科目概要・目標	社会福祉の援助技術に関わる課題としてのレクリエーションについて学修する。まず、ライフステージ(幼児・児童・青年・老年・障害者)に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。そして、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション援助の技術(個別・グループ・環境)を、実践を通して身につける。				
	教科書	①レクリエーション支援の理論と方法 楽しさをとおした心の元気づくり 公益財団法人日本レクリエーション協会 レクリエーション・インストラクターテキスト ②各種レク財冊子 ③県内実施の事業 *②③の資料は山口榮三が用意します。			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション レクリエーション(以下「レク」)支援とは/現場実習について 実技体験			
第2回		レク支援の展開方法(1) 個別及び集団レク支援方法とその実践			
第3回		レク支援の理論(1) コミュニケーションと信頼関係づくりの理論			
第4回		レク支援の理論(2) 良好な集団づくりの理論			
第5回		レク支援の理論(3) 自主的、主体的に楽しむ力を育む理論			
第6回		レク支援の方法(1) 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ			
第7回		レクリ支援の方法(2) 良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング			
第8回		レク支援の方法(3) 自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法①			
第9回		レク支援の方法(4) 自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法②			
第10回		レク支援プログラムの立案 グループ単位でレクプログラムを立案する			
第11回		レク支援実習① 立案したレクプログラムの支援実習			
第12回		レク支援実習② 立案したレクプログラムの支援実習			
第13回		レク支援実習③ 立案したレクプログラムの支援実習			
第14回		レク支援実習④ 立案したレクプログラムの支援実習			
第15回		まとめ			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み:可 論述式		
	授業内評価	30点	支援計画案の提出及びその内容で評価します。		
		10点	本学園におけるルール、マナーにそって、授業を受けていたかどうかで判断します。		
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。			

(講義)		科目名:心理的アセスメント(心理)/心理検査法(教育)		講師:武野 全恵	
科目概要	事例理解のために、性格テストや知能検査など各種の心理検査がどのように役に立つのかを知り、心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開、心理的アセスメントの方法、適切な記録及び報告について学修し、各種の心理検査の基本となる考え方について理解を深める。				
教科書		オリジナルの資料を中心に講義を行っていくが、他に参考資料を配布する場合もある。			
提出課題	レポート設題1	以下の4種の心理検査の中から、任意に1種選択し、選択した心理検査についてその特徴を述べよ。 ＜心理検査＞ 「ウェクスラー式知能検査」、「YG性格検査」、「ロールシャッハテスト」、「エゴグラム」			
	レポート設題2	以下の4種の心理検査の中から、【設題1】で選択したもの以外にもう1種選択し、選択した心理検査についてその特徴を述べよ。 ＜心理検査＞ 「ウェクスラー式知能検査」、「YG性格検査」、「ロールシャッハテスト」、「エゴグラム」			
	学修のポイント1	臨床心理アセスメントの倫理について			
	学修のポイント2	アセスメント面接について			
	学修のポイント3	乳幼児の発達に関する検査について			
	学修のポイント4	神経心理学的アセスメントについて			
	学修のポイント5	質問紙法の長所と短所について			
	学修のポイント6	投映法(投影法)の長所と短所について			
期末試験		詳細は後日に発表する			
回数		授業内容			
第1回		心理的アセスメントとは -臨床心理アセスメントの歴史と倫理について-			
第2回		質問紙法とは -エゴグラムを例にして-			
第3回		エゴグラムについてポイント解説 3200字レポ 設題1「エゴグラムについて、その特徴を述べよ。」下書き			
第4回		投映法とは -ロールシャッハテストを例にして-			
第5回		投映法(投影法)の長所と短所についてポイント解説 1200字レポ 学修のポイント6「投映法(投影法)の長所と短所について」			
第6回		知能検査とは -ウェクスラー式知能検査を例にして-			
第7回		ウェクスラー式知能検査についてポイント解説 3200字レポ 設題2「ウェクスラー式知能検査について、その特徴を述べよ。」下書き			
第8回		レポート設題1下書きについてフィードバック 3200字レポ 設題1「エゴグラムについて、その特徴を述べよ。」清書			
第9回		神経心理学的アセスメントとは			
第10回		神経心理学的アセスメントについてポイント解説 1200字レポ 学修のポイント4「神経心理学的アセスメントについて」			
第11回		レポート設題2下書きについてフィードバック 3200字レポ 設題2「ウェクスラー式知能検査について、その特徴を述べよ。」清書			
第12回		乳幼児の発達に関する検査とは			
第13回		アセスメント面接とは			
第14回		授業まとめとテスト準備			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	50点	論述式。持ち込み可。		
	授業内評価	10点	レポートの提出状況を踏まえて評価を行う。		
		10点	授業態度を踏まえて評価を行う。		
備考		欠席するとその回は態度の評価ができませんので、授業態度点も減点となります。そのため、できるだけ欠席をしないよう体調管理等に気を付けてください。また、進度によってはシラバスと内容が変更となる可能性があります。			

(講義)		科目名:家族福祉論		講師: 佐橋寿実	
科目概要・目標		この家族福祉論では、現代の多様化した家族の状況や抱える様々な問題や課題を提示し検討する。また、それらの問題や課題の解決・緩和を遂行するために必要なサービスやアプローチ、ネットワークなどについて学修する。加えて、この科目では、多彩なクライアントの選択や生き方などを尊重し、それらについて理解した上で環境を整え(エンパワメント)、彼らの健康的な領域を発見するとともに強化(ストレングス)し、より望ましい形で支援を提供するにはどのようにすればよいかについて考える力を養い、柔軟な思考や問題や課題ができるように学修する。			
教科書		なし。授業中に適宜紹介する。			
提出課題	レポート設題1	わが国の現代家庭が抱える問題や課題について述べ、その背景となった要因について記述せよ。			
	レポート設題2	少子化を解消するための福祉サービスやプランなどを具体的に挙げ、その効果について検討するとともに、家庭支援や保育所の特別事業などについて注目して、その効果や課題について参考文献などを活用して記述せよ。			
	学修のポイント1	主体的である子どものおかれた状況について把握する。			
	学修のポイント2	DVや虐待などが子どもに及ぼす影響について考察する。			
	学修のポイント3	育児の外部化が子どもや親に及ぼす影響について検討する。			
	学修のポイント4	少子化の進行が社会や国に及ぼす影響について理解を深める。			
	学修のポイント5	家庭支援や子育て支援を行う際に、チームアプローチやネットワーク力が必要不可欠であることを認識する。			
	学修のポイント6	社会資源の充実および開発・人材の育成および配置について把握する。			
期末試験		後日発表する			
回数		授業内容			
第1回		家族とはなにか			
第2回		社会状況の変化からみた家族			
第3回		家族を取り巻く問題①児童虐待			
第4回		家族を取り巻く問題②ドメスティック・バイオレンス			
第5回		家族を取り巻く問題③児童虐待とDVの関係をみる			
第6回		家族を取り巻く問題④離婚とひとり親家庭			
第7回		少子化の現状と課題			
第8回		少子化に関する施策			
第9回		家庭への支援にかかわる法と制度			
第10回		家庭を支援する社会資源と社会福祉施設(1)			
第11回		要保護児童とその家庭支援			
第12回		家庭を支援する社会資源と社会福祉施設(2)			
第13回		ソーシャルワーカーによる家庭支援			
第14回		家族問題を理解するモデル			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み可。論述式。		
	授業内評価	20点	提出物(学修のポイント2本、レポート下書き2本)期限厳守。遅れた場合は減点。		
		20点	授業態度		
備考		参考文献:橋本真紀、山縣文治『よくわかる家庭支援論』ネルヴァ書房			

令和 8年度 前期

(講義)		科目名:福祉教養演習Ⅰ（共通科目）		講師：堀田 利恵	
科目概要	本科目は、社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験に合格することを目標とする。共通科目を実施する。				
教科書	「過去問解説集2027」中央法規、「受験ワークブック2027」【共通】中央法規(写し)				
回数	授業内容				
第1回	ガイダンス・医学概論				
第2回	医学概論				
第3回	医学概論 / 確認テスト ①				
第4回	心理学と心理的支援				
第5回	心理学と心理的支援				
第6回	心理学と心理的支援 / 確認テスト ②				
第7回	ソーシャルワークの基盤と専門職				
第8回	ソーシャルワークの基盤と専門職				
第9回	ソーシャルワークの基盤と専門職 / 確認テスト③				
第10回	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ				
第11回	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ				
第12回	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ / 確認テスト④				
第13回	①～④の総復習テスト（総まとめテスト）				
第14回	社会保障				
第15回	社会保障				
第16回	社会保障/（期末テスト）				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	前期末試験		
	授業内評価	30点	確認テストなどの取り組みや授業中の発言を評価する。		
備考	各科目テキスト解説と「一問一答」⇒「過去問」演習⇒「確認テスト」⇒「科目テスト」の順で行います。				

(実技)		科目名:ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		講師: 森奈祐	
科目概要・目標	この科目では、実習の事前学習として、実際に実習を行う予定の実習分野(利用者理解を含む)と、施設、事業者、機関、団体、地域社会に関する基本的な理解を身につける。スクーリングでは、相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、実践的な技術等を体得することを目標とする。実習先と指導教員との指導のもとで実習計画を作成する。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、高齢者や障害者の支援事業所の運営、介護支援専門員業務、社会福祉・精神保健福祉の相談業務を経て、専門学校で福祉・心理科目の授業や実習指導に携わってきた社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理士の講師のもとで、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習(社会専門)』中央法規			
提出課題	レポート設題1	自分が実習を予定(希望)している施設(種別)では、どのような援助が提供されているか具体的に述べよ。			
	学修のポイント1	ソーシャルワーク実習の仕組みについて			
	学修のポイント2	実習計画の意義について			
	学修のポイント3	支援計画の作成について			
	学修のポイント4	ソーシャルワーカーとしての社会福祉士について			
	学修のポイント5	実習記録の内容について			
	学修のポイント6	評価の意味について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		社会福祉士について、実習計画の意義・作成について			
第2回		配属先実習機関・施設の概要、支援内容について情報収集			
第3回		ソーシャルワーク実習の仕組みについて			
第4回		実習計画の意義について			
第5回		事前訪問の目的と意義について			
第6回		基本的なマナーと訪問時の注意事項について			
第7回		実習記録の内容、書き方、取り扱いについて①			
第8回		実習記録の内容、書き方、取り扱いについて②			
第9回		実習評価の意味について			
第10回		個別支援計画の作成について①			
第11回		個別支援計画の作成について②			
第12回		実習記録の内容、書き方、取り扱いについて③			
第13回		実習中の悩みやトラブルについて			
第14回		実習の実際(多機関連携、権利擁護、支援と評価など)			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	提出課題の理解度・提出期限、授業内での取組姿勢、授業への参加態度について評価		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価、退室、あるいは科目不合格となることがあります。			

(講義)		科目名:ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		講師: 森 奈祐	
科目概要・目標	本科目では、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。特に、ソーシャルワーク実践に不可欠なソーシャルワークプロセス(相談援助の展開過程)と、様々な実践モデル及びアプローチについての理解を軸に、その過程において必要とされる面接技術や記録技術を学修し、ケアマネジメントや集団を活用した支援、コミュニティワーク等の理論と展開方法、スーパービジョンやコンサルテーションの専門知識と技術についての理解を深める。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、高齢者や障害者の支援事業所の運営、介護支援専門員業務、社会福祉・精神保健福祉の相談業務を経て、専門学校で福祉・心理科目の授業や実習指導に携わってきた社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理士の講師のもとで、福祉現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
	教科書	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法』中央法規			
提出課題	レポート設 題1	ソーシャルワークにおける、人と環境との交互作用に関する視点と理論について述べよ。			
	レポート設 題2	ソーシャルワークの展開過程と各段階の特徴、ソーシャルワーカーの役割について述べよ。			
	学修のポイント1	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて、それぞれの対象と目的、方法について述べよ。			
	学修のポイント2	ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて、それぞれの考え方と方法、特徴を述べよ。			
	学修のポイント3	ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について述べよ。			
	学修のポイント4	グループワークの概念とその展開方法をまとめ、実際の事例をもとにグループの意義とソーシャルワーカーの役割について述べよ。			
	学修のポイント5	ソーシャルワークにおける面接の意義と目的・技法について説明した上で、ソーシャルワーカーに求められる専門的態度について述べよ。			
	学修のポイント6	ソーシャルワークにおけるスーパービジョンの意義と目的、課題について述べよ。			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク①			
第2回		人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク②			
第3回		ソーシャルワークの過程①			
第4回		ソーシャルワークの過程②			
第5回		ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ			
第6回		ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク			
第7回		ソーシャルワークの面接			
第8回		ソーシャルワークの記録			
第9回		スーパービジョンとコンサルテーション			
第10回		ケアマネジメント(ケースマネジメント)			
第11回		グループを活用した支援			
第12回		コミュニティワーク			
第13回		ソーシャルアドミニストレーション			
第14回		ソーシャルアクション			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	提出課題の理解度・提出期限、授業内での取組姿勢、授業への参加態度について評価		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。			

(演習)		科目名:ソーシャルワーク演習Ⅳ		講師: 戎弘志	
科目概要・目標	ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。				
	ソーシャルワーク演習Ⅳでは、実践モデルやアプローチに関して事例をもとにその内容を検討するとともに、今までに学習した内容を総合的に学習し理解を深めます。具体的には、ソーシャルワークに関する理論やアプローチを事例などを通して修得します。また地域の特性や課題を適切に把握し、課題を解決するための理論と技術について、やはり事例を用いて実践的に理解を深めます。				
	ソーシャルワーク演習Ⅳが終了した時点で下記の学習目標を達成することが期待される。				
	1) ソーシャルワークに関する理論やアプローチの特徴やポイントについて、明瞭な説明をすることができる。				
	2) 事例等を通して、理論やアプローチの実際をイメージすることができる。				
提出課題	3) グループ活動や他者との意見交換などを通して自己の思考を整理し、発表することができる。				
	4) 地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。				
	(実務経験を有する講師による授業の補足)				
	当科目は、障害者施設や特別養護老人ホームの施設長を経て、長年にわたりソーシャルワークの実習指導に携わってきた社会福祉士の講師のもと、福祉現場における事例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
	教科書		一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習(社会専門)』中央法規		
提出課題	レポート設題1	地域における課題の解消と軽減に向け、必要なアプローチの方法について述べよ			
	学修のポイント1	生活モデルについて			
	学修のポイント2	問題解決アプローチについて			
	学修のポイント3	行動変容アプローチについて			
	学修のポイント4	ナラティブアプローチについて			
	学修のポイント5	地域福祉課題の把握と計画の作成について			
	学修のポイント6	地域福祉課題の解決に向けた取り組みについて			
期末試験		後日指示			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション(ソーシャルワーク演習Ⅴのねらいと解説)			
第2回		スーパービジョンの方法(個人のスーパービジョンについて)			
第3回		ケースカンファレンスの方法(ケース報告の振り返り)			
第4回		事例研究(1)			
第5回		事例研究(2)			
第6回		事例研究(3)			
第7回		事例研究(1)(2)(3)での専門知識及び技術を考察する			
第8回		事例研究(4)			
第9回		事例研究(5)			
第10回		事例研究(6)			
第11回		自らの実習経験と学んだ専門知識及び技術を考察する			
第12回		事例研究(9)			
第13回		事例研究(10)			
第14回		まとめ(報告事例について専門知識及び技術を振り返る)			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	50点			
	授業内評価	20点	授業への積極的参加とポイント課題の内容と提出状況		
備考					

(講義)		科目名:学校・教育心理学		講師: 天野 寛	
科目概要・目標	教育心理学とは、子供を教育していく上で必要となる知識を身につけ、子供の成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から探究する学問といえる。そのため、発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の4つの領域について基礎知識が必要となってくる。本科目では、以上のような基礎的修得はもちろんのこと、事例にのっとり、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討し、教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を学ぶ。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用を考える。				
教科書		櫻井茂男『たのしく学べる最新教育心理学 教職に関わるすべての人に』図書文化			
提出課題	設題 1	子どもの「個人差」について述べよ。			
	設題 2	子どもの「不適応行動」について述べよ。			
	学修のポイント1	教育心理学の意義について			
	学修のポイント2	環境から学ぶことについて			
	学修のポイント3	レディネスの概念について			
	学修のポイント4	知能について			
	学修のポイント5	評価について			
	学修のポイント6	授業方法について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		教育心理学とは			
第2回		子どもの個人差(知能)			
第3回		子どもの個人差(性格)			
第4回		学習のメカニズム①			
第5回		学習のメカニズム②			
第6回		発達の理論と教育①			
第7回		発達の理論と教育②			
第8回		学習意欲とモチベーション			
第9回		集団としての子ども			
第10回		子どもの不適応行動			
第11回		発達障害への理解			
第12回		発達障害への理解			
第13回		子どもと教師			
第14回		まとめ			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点	授業態度、レポート内容等を評価対象とする。		
備考		他の学生の迷惑になると判断した場合、厳格に対応する。			

(講義)		科目名:教養演習Ⅰ(進路ガイダンスを含む)		講師:室山俊浩 仁井田 和也	
科目概要・目標	外部講師の話を聞くことで、就職活動についての意識を高めていく。 公務員試験や能力試験対策として問題演習を行う。				
教科書	配布資料を基に学習を進める				
期末試験	後日連絡				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション				
第2回	問題演習				
第3回	ジモト就活について				
第4回	問題演習				
第5回	就労支援事業について				
第6回	就職活動について				
第7回	キャリアシーミーツ 学内企業説明会				
第8回	問題演習				
第9回	法人等による出張授業				
第10回	問題演習				
第11回	法人等による出張授業				
第12回	問題演習				
第13回	法人等による出張授業				
第14回	問題演習				
第15回	問題演習				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	授業で扱った問題から出題。持ち込み不可。		
	授業内評価	30点	授業態度、グループワーク等への参加・発言・積極性、提出物の内容、提出期限を評価		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。			

(演習)		科目名:精神保健福祉演習Ⅱ		講師 上松勝二郎 田本佳寿美	
科目概要・目標	精神保健福祉演習Ⅱは、ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱにおいて、「ソーシャルワークの基礎」「ソーシャルワークの展開」を学んだ後に位置づけられる科目で、精神保健福祉演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと連続して学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。 精神保健福祉演習Ⅱは、精神保健福祉援助の事例(集団に対する事例を含む。)を活用し、精神保健及び精神障害者に関する法律、障害者基本法、また障害者総合支援法をはじめとする各種法制度の運用について実践的に学習する。また精神保健福祉援助の事例(集団に対する事例を含む。)を用いて、医療機関、障害福祉サービス事業や行政機関等、関連する専門職について実践的に学ぶ。さらに、すべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する方法を学ぶ。 精神保健福祉演習Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。 ①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。 ②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。				
	教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク学校教育連携編集 『最新精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習(精神専門)』中央法規			
	レポート設題1	本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際に必要な要素について述べよ。			
	学修のポイント1	精神科医療機関で働く精神保健福祉士として理解しておくべき 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律のポイントを述べよ。			
	学修のポイント2	障害者総合支援法について述べよ。			
提出課題	学修のポイント3	介護保険法について述べよ。			
	学修のポイント4	障害者虐待防止法について述べよ。			
	学修のポイント5	医療観察法について述べよ。			
	学修のポイント6	障害者雇用促進法について述べよ。			
	期末試験	後日指示			
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション・学習目標・個人の役割等				
第2回	医療機関における事例①ケースワーク・グループワーク				
第3回	医療機関における事例②関連法の理解				
第4回	障害サービス事業所における事例(地域生活支援等)				
第5回	障害サービス事業所における事例(障害者総合支援法の理解)				
第6回	行政機関における事例(障害者差別・虐待等)				
第7回	行政機関における事例(生活保護・年金制度等)				
第8回	司法分野における事例(医療観察法の理解)				
第9回	産業・労働分野の事例(職場ストレス・リワーク・就労等)				
第10回	高齢者福祉施設における事例(関連法の理解)				
第11回	児童分野における事例い(虐待を中心としたケースワーク)				
第12回	各依存症に対しての事例(アルコール・ギャンブルの予防・回復)				
第13回	各依存症に対しての事例(薬物依存を中心に)				
第14回	自殺対策に関する事例(現状・対策について)				
第15回	期末試験				
第16回	科目終了試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	30点			
備考					

(講義)		科目名:社会調査法		講師: 田辺 則人	
科目概要・目標		本 科 目 は、国が定める社会福祉士および精神保健福祉士の養成カリキュラムにおける「社会福祉調査の基礎」に対応するものである。本 科 目 では、社会調査および社会福祉調査の基礎的事項を学習するが、社会福祉調査は社会福祉領域での社会調査のことであるため、本 科 目 の内容の多くの部分は社会調査に関するものとなる。本 科 目 を学習 することにより、社会調査の重要性、世の中に氾濫する社会調査の真実や問題点、社会福祉領域における社会調査の活用法について把握することが可能となる。			
教科書		『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 5 社会福祉調査の基礎』中央法規			
提出課題	レポート設題1	社会調査 および社会福祉調査 の性格についてまとめた上で、量的調査(統計調査)と質的調査(事例調査)の相違について述べよ。			
	学修のポイント1	社会調査における倫理と個人情報保護について			
	学修のポイント2	全数調査と標本調査の特徴および標本抽出法について			
	学修のポイント3	質問紙の作成方法と留意点について			
	学修のポイント4	質問紙の配布と回収の方法について			
	学修のポイント5	質的調査のデータ収集法について			
	学修のポイント6	質的調査における記録の方法と留意点について			
期末試験		後日連絡する			
回数		授業内容			
第1回		<調査とは・社会福祉における調査の必要性和意義> オリエンテーション/社会福祉と調査			
第2回		調査の重要性和その種類・枠組み			
第3回		調査計画の策定、レポートの書き方について			
第4回		<量的調査の方法と留意点>量的調査の方法とその特徴について			
第5回		アンケート調査の実施			
第6回		調査票作成上の留意点について			
第7回		量的調査によるデータ解析とデータサイエンス			
第8回		作表・作図による分析に立ち戻る			
第9回		<質的調査の方法と留意点> 質的調査の方法とその特徴について			
第10回		ヒアリング調査の実施			
第11回		量的調査と質的調査の特徴の比較/レポート作成のこつ			
第12回		社会調査における倫理と個人情報保護			
第13回		ワークショップの企画と試行			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	後日連絡する。		
	授業内評価	30点	提出物(学修のポイント3本、下書きレポート・清書レポート・課題レポート)の提出状況。		
		10点	ワークショップの姿勢、授業態度(私語、居眠り等は厳禁)。		
備考		遅刻、欠席、私語、居眠り、スマートフォン使用は認めた場合以外は厳禁。			

社会福祉学科

保育児童福祉コース

3年生

(講義)		科目名:教養基礎演習Ⅱ		講師: 室山俊浩	
科目概要		本科目では、広く基礎科目を学習することにより、大学卒業程度の深い教養を身につけ、公務員および一般の就職対策や大学院入試などに対応できる、一般教養の学力をつけることをめざす。教養試験の類型は、多くの地方自治体・施設等における採用試験に取り入れられているため、福祉・保育・教育関連の資格職、公務員や地方上級公務員試験対策はもとより、一般の就職採用試験対策にも効果的である。また幅広い教養を身につけられることから、就職以外の進路を考えている学生にとっても有効である。			
教科書		適宜プリントを配布する			
レポート	設題 1	環境問題と環境保護のための取り組みについて述べよ。			
	設題 2				
科目終了試験	学修のポイント1		次の出来事を年代順に並べ替え、どのような出来事が簡単に説明せよ。 (a.南北ベトナムの統一、b.ベルリンの壁の崩壊、c.湾岸戦争、d.昭和天皇の崩御、e.沖縄返還)		
	学修のポイント2		東京が4月3日の午後8時のとき、サンフランシスコ(西経120度)は何日の何時か。理由も説明せよ。		
	学修のポイント3		AB型とAB型の両親から産まれる子どものもつ血液型の確率を血液型ごとに求めなさい。理由も説明する事。		
	学修のポイント4		日本の四季の天気の特徴を説明せよ。		
	学修のポイント5	高さ19.6mからボールを水平に初速度20m/sで投げた時、ボールが地面に着くのは何秒後か。また、ボールは水平方向に何m進むか。それぞれ説明せよ。ただし、重力加速度を9.8m/s ² とする。			
	学修のポイント6		「世界遺産」とは何か説明せよ。また、世界遺産リストに登録されている日本の文化遺産と自然遺産の主なものを1点ずつ取り上げて紹介せよ。さらに、「無形文化遺産」についても説明し、日本の例を1点紹介せよ。		
期末試験		後日発表する			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション / 環境問題について			
第2回		環境保護のための取り組みについて			
第3回		環境問題にどのように取り組むべきか			
第4回		学修のポイント1			
第5回		学修のポイント2			
第6回		学修のポイント3			
第7回		学修のポイント4			
第8回		学修のポイント5			
第9回		学修のポイント6			
第10回		問題演習			
第11回		問題演習			
第12回		問題演習			
第13回		問題演習			
第14回		問題演習			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率		30点 75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験		40点 持ち込み不可 授業で扱った問題から出題		
	授業内評価		30点 提出物・授業内課題など		
備考		提出物の締切は厳守すること。期限を守れなかった場合は謝罪文を添付して提出すること。授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。無断の座席移動も禁止。			

(実技)		科目名:音楽実技ⅡB		講師: 花井 淑	
科目概要・目標	「音楽」で学んだ基本的な音楽理論(楽典、和声法)、鍵盤楽器の基本的奏法を用いて、より実践力を高めるための演習を行う。「音楽」では、演奏するために必要な知識や技術について実践を通して学んだが、「音楽Ⅱ」では、さらに発展的に様々な曲を学ぶことで技術を確かなものにする。保育現場での音楽活動に関わる演奏に発展する保育実践に焦点を当てた演奏力を身につける。				
教科書	「バイエルピアノ教則本」、「新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門」、「こどものうた大百科」、配布楽譜、等				
期末試験	実技試験				
回数	授業内容				
第1回	ガイダンス(楽器の扱い方、教室でのマナー、授業の進め方、進度調べ、等)。 ピアノ実技。				
第2回					
第3回					
第4回	バイエル 70～106 の未終了曲		弾き歌い①		
第5回	〃		〃		
第6回	〃		〃		
第7回	〃		〃		
第8回	〔中間試験: バイエル 70～106 から1曲 弾き歌い①〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲 自由選択。				
第9回	〔中間試験: バイエル 70～106 から1曲 弾き歌い②〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲 自由選択。				
第10回					
第11回					
第12回	バイエル 70～106 の未終了曲		弾き歌い②		
第13回	〃		〃		
第14回	〃		〃		
第15回	〃		〃		
第16回	〃		〃		
第17回	〃		〃		
第18回	〔 中間試験: バイエル 70～106 から1曲 弾き歌い② 〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲 自由選択。				
第19回	弾き歌い③				
第20回					
第21回					
第22回	バイエル 70～106 の未終了曲		弾き歌い③		
第23回	〃		〃		
第24回	〃		〃		
第25回	〃		〃		
第26回	〃		〃		
第27回	〃		〃		
第28回	〃		〃		
第29回	まとめ・発表				
第30回					
第31回	〔期末試験: バイエル 70～106 から1曲、弾き歌い③〕 バイエル1曲、弾き歌い1曲				
第32回					
単位取得にあたり	上記のバイエル番号は、最低ラインで、終了した学生はさらに上を目指すように。				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。出席不足の場合は再履修とする。		
	期末試験	15点	課題曲を変更して安易な曲にする場合、点数は 70%とする。		
	授業内評価	20点	中間テスト: 10点×2回 課題曲を変更して安易な曲にする場合、点数は 70%とする。		
		15点	バイエル: 5点×3曲		
		15点	弾き歌い: 5点×3曲 ただし正伴奏で弾けること(和音伴奏の場合は5曲)		
		5点	発表: 未発表のもの、ただし、試験で弾いたものは可。		
		減点	忘れ物: 減点とする(1回につき 1点減点)		
備考	弾き歌いは、教科書、または他楽譜より3曲(不合格のもの)以上を選択				

(講義)		科目名:子どもと音楽		講師:鈴木みどり	
科目概要・目標	本授業では、領域「表現」のなかの「音楽」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な音楽遊びや表現の構成などの専門的事項についての知識、技能、表現力を身に付ける。				
教科書		秋田喜代美・三宅茂夫監『「子どもの姿からはじめる領域・表現」株式会社みらい			
提出課題	設題 1	乳幼児の音楽的表現活動の具体例を挙げ、乳幼児の音楽的表現の発達について保育者はどのような視点を大切にすべきかについて述べなさい。 ポイント 領域「表現」における音楽表現の扱い・役割について理解する。			
	学修のポイント1	保育内容「表現」を捉える視点について			
	学修のポイント2	乳幼児の「生活」と「遊びの中の音楽」の関係について			
	学修のポイント3	音楽鑑賞会について			
	学修のポイント4	音楽表現による協同性や道徳性の芽生えについて			
	学修のポイント5	情報化社会と保育内容の音楽的側面の展開と工夫について			
	学修のポイント6	保育の中で子どもの発達を音楽の側面から捉える際に留意することについて			
期末試験		論述問題			
回数		授業内容			
第1回		保育内容「表現」を捉える視点について			
第2回		保育内容「表現」を捉える視点について			
第3回		音楽鑑賞会について			
第4回		音楽鑑賞会について			
第5回		保育の中で子どもの発達を音楽の側面から捉える際に留意することについて			
第6回		保育の中で子どもの発達を音楽の側面から捉える際に留意することについて			
第7回		乳幼児の音楽的表現の発達について保育者は、どのような視点を大切にすべきか			
第8回		乳幼児の音楽的表現の発達について保育者は、どのような視点を大切にすべきか			
第9回		音楽表現による協同性や道徳性の芽生えについて			
第10回		情報化社会と保育内容の音楽的側面の展開と工夫について			
第11回		乳幼児の音楽的表現の発達について保育者は、どのような視点を大切にすべきか			
第12回		乳幼児の音楽的表現の発達について保育者は、どのような視点を大切にすべきか			
第13回		乳幼児の音楽的表現の発達について保育者は、どのような視点を大切にすべきか			
第14回		乳幼児の「生活」と「遊びの中の音楽」の関係について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	論述問題		
	授業内評価	10点	レポート内容、提出状況		
		20点	授業態度		
		10点	実践の取り組み		
備考		幼児の歌、手遊び、リズム遊びの実技、等を取り入れ、音楽の実践をする。			

(講義)		科目名: 幼児理解		講師: 鈴木みどり	
科目概要・目標		保育は、幼児一人ひとりの発達の特性に応じ、発達の課題に即した指導、援助を行うことが重要である。そこで、本科目では、幼児一人ひとりの行動や内面の理解、発達を適切に把握できるよう、ビデオ等も利用し保育の基本のあり方、幼児の生活の実際、指導、援助方法、留意する点、保育記録の意味等について学ぶ。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、保育士として公立保育所で主任も務めた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。			
教科書		大豆生田啓友-渡邊英則編著「新しい保育講座6保育方法・指導法」 ミネルバ書房			
提出課題	レポート設題1	なぜ環境による保育が幼児教育では求められるのか述べよ。 ＜幼稚園教育要領や保育所保育指針にふれ、幼児期の特性や幼児の生活と学びの特性などに着目すること。＞			
	学修のポイント1	幼児の姿をより深くとらえるための保育者の姿勢について			
	学修のポイント2	遊びを通しての総合的指導について			
	学修のポイント3	保育形態について			
	学修のポイント4	行事を生かした保育の展開について			
	学修のポイント5	地域や小学校との連携が生かされる保育について			
	学修のポイント6	保育者に求められる発達の理解について			
期末試験		論述問題			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション 幼児理解とは			
第2回		幼児の姿をより深くとらえるための保育者の姿勢について			
第3回		遊びを通しての総合的指導について			
第4回		遊びを通しての総合的指導について			
第5回		保育者に求められる発達の理解について			
第6回		保育者に求められる発達の理解について			
第7回		なぜ環境による保育が幼児教育ではもとめられるか			
第8回		保育形態について			
第9回		なぜ環境による保育が幼児教育ではもとめられるか			
第10回		なぜ環境による保育が幼児教育ではもとめられるか			
第11回		なぜ環境による保育が幼児教育ではもとめられるか			
第12回		地域や小学校との連携が生かされる保育について P175			
第13回		保育者に求められる発達の理解について			
第14回		行事を生かした保育の展開について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	論述式。		
	授業内評価	10点	レポート内容、提出状況		
		20点	授業態度		
10点		実践の取り組み			
備考		幼児の好きな歌、遊び等を取り入れ子ども理解に役立てていく。			

(実技)		科目名:レクリエーションワーク		講師:山口榮三	
科目概要・目標	社会福祉の援助技術に関わる課題としてのレクリエーションについて学修する。まず、ライフステージ(幼児・児童・青年・老年・障害者)に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。そして、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション援助の技術(個別・グループ・環境)を、実践を通して身につける。				
	教科書	①レクリエーション支援の理論と方法 楽しさをとおした心の元気づくり 公益財団法人日本レクリエーション協会 レクリエーション・インストラクターテキスト ②各種レク財冊子 ③県内実施の事業 *②③の資料は山口榮三が用意します。			
期末試験	後日指示				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション レクリエーション(以下「レク」)支援とは/現場実習について 実技体験				
第2回	レク支援の展開方法(1) 個別及び集団レク支援方法とその実践				
第3回	レク支援の理論(1) コミュニケーションと信頼関係づくりの理論				
第4回	レク支援の理論(2) 良好な集団づくりの理論				
第5回	レク支援の理論(3) 自主的、主体的に楽しむ力を育む理論				
第6回	レク支援の方法(1) 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ				
第7回	レクリ支援の方法(2) 良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング				
第8回	レク支援の方法(3) 自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法①				
第9回	レク支援の方法(4) 自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法②				
第10回	レク支援プログラムの立案 グループ単位でレクプログラムを立案する				
第11回	レク支援実習① 立案したレクプログラムの支援実習				
第12回	レク支援実習② 立案したレクプログラムの支援実習				
第13回	レク支援実習③ 立案したレクプログラムの支援実習				
第14回	レク支援実習④ 立案したレクプログラムの支援実習				
第15回	まとめ				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	持ち込み:可 論述式		
	授業内評価	30点	支援計画書の提出及びその内容で評価します。		
		10点	本学園におけるルール、マナーにそって、授業を受けていたかどうかで判断します。		
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。			

2026年度 前期

(実技)		科目名： 器楽Ⅱ		講師：霞 真実子	
科目概要・目標	様々な状況に応じて音楽を楽しみ、仲間と協力し、応用できるよう体験する。				
	教科書		プリント		
期末試験		お話しの効果音			
1	4月14日(火)	リズム・コード伴奏			
2	4月21日(火)	コード伴奏 ①			
3	5月12日(火)	両手で伴奏(証城寺)			
4	5月19日(火)	両手で伴奏(証城寺)			
5	5月26日(火)	両手で伴奏(証城寺)			
6	6月2日(火)	和音をつける ④+⑤提出			
7	6月9日(火)	和音をつける			
8	6月16日(火)	連弾			
9	6月23日(火)	連弾			
10	6月30日(火)	連弾			
11	7月7日(火)	連弾 ⑥			
12	7月14日(火)	効果音			
13	7月21日(火)	効果音			
14	8月18日(火)	効果音			
15	8月25日(火)	効果音			
16	9月1日(火)	期末試験 お話に音をのせる			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	10点			
	授業内評価	10点	平常点		
		50点	中間試験 ①②5点 ③～⑥10点		
備考		授業時の私語・飲食は厳禁。携帯電話の電源は必ず切ること。			

(演習)		科目名：保育児童基礎演習		講師：坂 鏡子	
科目概要・目標	保育実習に先立ち、保育の実際に触れるとともに、実習生としての基本的なあり方を学ぶ。保育の物的・人的環境（保育施設、設備、人的構成）、保育者と子どもの関係、子ども同士の関係など、知識として学んだことを実際に確認しながら、自らの保育所実習・施設実習への具体的な目標や抱負について意識化する。また施設実習について、実習施設の種別ごとの意義や特徴について理解し、実習施設の選択に備える。 手遊び、絵本の読み聞かせ、紙芝居、ペープサートなど保育の基本実技を身につける。自分の日常行動の改善を図り、実習への意欲を高める。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、公立の児童センターや子育て支援センターのセンター長を経て、現在も子育ての支援を行うNPO法人の理事長を務める講師のもと、保育現場における実例を交え、保育の実践的な知識を学ぶ。				
	教科書	「保育者になる人のための実習ガイドブックAtoZ」萌文書林			
参考文献		池田隆英、他「保育所・幼稚園実習-保育者になるための5つのステップ」ミネルヴァ書房 内山元夫、他「改訂福祉施設実習ハンドブック-保育士養成課程-」みらい。 開仁志「実習日誌の書き方-幼稚園・保育所・施設実習完全対応-」一藝社			
提出課題	レポート設題1	施設実習の対象施設から1つを選び、その施設の目的や設置基準、職員、利用者等の特徴を述べよ。さらに、その施設で実習すると仮定して、実習の目標や抱負について述べよ。 <ポイント>実習施設については、教科書第9章p.136～と、児童福祉法37条～、児童福祉法最低基準第19条～などをよく調べる。実習の目標や抱負については、調べた施設の特徴に即して、具体的に記述すること。			
	学修のポイント1	実習を迎えるまでのステップについて			
	学修のポイント2	実習に必要な心構えと準備について			
	学修のポイント3	実習日誌の書き方と目的について			
	学修のポイント4	実習中及び、実習後の留意事項について			
	学修のポイント5	部分実習・責任実習と指導案作成の方法について			
	学修のポイント6	施設実習の実際と留意点について			
期末試験		後日授業内で指示			
回数		授業内容			
第1回		実習とは			
第2回		実習を迎えるまでのステップについて			
第3回		実習園の事前訪問			
第4回		実習日誌の書き方と目的について			
第5回		実習日誌と保育理解			
第6回		実習生の一日と保育の流れの記録			
第7回		実習に必要な心構えと準備			
第8回		部分実習と指導案作成の方法			
第9回		責任実習と指導案作成の方法について			
第10回		幼稚園・保育所での部分実習・責任実習の実際			
第11回		施設での実習の内容-施設の種類と特徴-			
第12回		施設実習を迎えるまで			
第13回		施設実習をの実際と留意点			
第14回		一日の実習の流れと実習日誌			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点			
	授業内評価	15点	授業態度		
		10点	レポート内容		
		15点	提出状況		
備考		前向きで積極的な授業態度を心がけてください。			

(講義)		科目名:社会的養護Ⅱ		講師:坂 鏡子	
科目概要・目標	学生は、居住型児童福祉施設の創設の意図や目的について、座学や演習を通して学ぶ。また、同時に施設を利用する子どもへの理解を深めるとともに、福祉施設が内在する機能や役割について学ぶ。さらに、児童の心身の成長や発達を保障し支援するために必要な知識や技術、環境について学修し、適切な児童観を育て、かつ施設養護の有効性について学ぶ。加えて、地域社会と居住型児童福祉施設の関係性についても学修する。				
教科書		小野澤昇、田中利則、大塚良一『子どもの生活を支える社会的養護内容』ミネルヴァ書房。			
提出課題	レポート設題1	児童福祉施設を1つ選び、その目的及び利用者の状況、支援の実際と課題について述べよ。			
	学修のポイント1	養護実践の基本的な考え方について			
	学修のポイント2	児童福祉施設の種類とその目的について			
	学修のポイント3	児童福祉施設における利用者の入所理由について			
	学修のポイント4	児童福祉施設における職員の支援内容について			
	学修のポイント5	児童福祉施設と地域社会について			
	学修のポイント6	児童福祉施設と社会資源との連携について			
期末試験		後日発表			
回数		授業内容			
第1回		社会的養護内容とは何か			
第2回		学修のポイント①養護実践の基本的な考え方について			
第3回		学修ポイント②児童福祉施設の種類とその目的について			
第4回		学修ポイント③児童福祉施設における利用者の入所理由について			
第5回		レポート①児童福祉施設の役割			
第6回		レポート②施設の概要			
第7回		レポート③施設の課題			
第8回		レポート④その他			
第9回		学修ポイント④児童福祉施設における職員の支援内容について			
第10回		学修ポイント⑤児童福祉施設と地域社会について			
第11回		学修のポイント⑥児童福祉施設と社会資源との連携について			
第12回		里親制度と特別養子縁組①			
第13回		里親制度と特別養子縁組②			
第14回		期末試験対策			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点			
	授業内評価	30点	課題提出期限が遅れたら減点1回5点		
		20点	積極的な授業態度		
備考		遅刻後に教室へ入室する際は、出席簿への記入が必要です。担当教員に必ず遅刻した旨を教えてください。積極的に頑張りましょう。			

2026年度前期

(講義)		科目名:保育カリキュラム論／保育・教育課程論		講師: 田口 早苗	
科目概要・目標		乳幼児保育における長期的見通し、保育担当者の共通認識、指導計画の重要性と計画の作成法を扱う。また、「計画・実践・反省・計画の改善」の関連性についての事例を理解するとともに、保育の省察から子ども理解と保育の見直しについて掘り下げ、一人ひとりに即した保育の実践能力を培う。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、保育士として公立保育所、障害児通園施設、児童センターで保育に従事し、園長も務めた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。			
教科書		【教科書】池田幸代・田中謙編著『マネジメントする保育・教育カリキュラム』教育情報出版。 【参考書】幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)(平成29年告示)、チャイルド本社。			
提出課題	レポート設題1	保育・教育課程の意義について述べよ。 ＜ポイント＞保育所保育指針に示されている内容を踏まえた上で、目の前の子どもの自発的な興味関心や個人差に配慮しつつ、長期計画・短期計画を作成することの意義を述べる。なお、記録することの意味や評価・反省までが指導計画の作成と考えるとまとめること			
	学修のポイント1	保育における計画について　＜ポイント＞は以下すべて別紙			
	学修のポイント2	幼児期の遊びと学びについて			
	学修のポイント3	全体的な計画と指導計画の作成について			
	学修のポイント4	指導計画作成の実際について			
	学修のポイント5	保育における評価について			
	学修のポイント6	保育カリキュラムの課題と展望について			
期末試験		後日授業で指示			
回数		授業内容			
第1回		シラバスの確認 ・シラバスを読み、レポートの設題及び科目修了試験学習のポイントを把握する。			
第2回		「カリキュラム・マネジメント」について ・「幼稚園教育要領」等の全体を読み、「カリキュラム・マネジメント」とは何かを理解する。			
第3回		「全体的な計画」について ・「保育所保育指針」等の全体を読み、「全体的な計画」を作成することの意義について理解する。			
第4回		PDCAサイクルに基づくカリキュラム・マネジメントについて ・テキストの該当箇所を読み、「カリキュラム・マネジメント」の重要性について理解する。			
第5回		「幼児期において育みたい資質能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」等の全体を読み、「幼児期において育みたい資質能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解する。			
第6回		指導計画の作成の手順について ・テキストの該当箇所を読み、長期指導計画作成の手順を理解する。			
第7回		指導計画の作成の手順について ・テキストの該当箇所を読み、短期指導計画作成の手順を理解する。			
第8回		指導計画の作成の手順について ・テキストの該当箇所を読み、乳児保育における個別の計画作成の手順を理解する。			
第9回		指導計画の作成の実際 ・テキストの指導計画事例を参考に、3歳児の月案を実際に作成してみる。)			
第10回		指導計画の作成の実際 ・テキストの指導計画事例を参考に、5歳児の週案を実際に作成してみる。			
第11回		指導計画の作成の実際 ・テキストの指導計画事例を参考に、0歳児の日案を実際に作成してみる。			
第12回		指導計画の作成の実際 ・テキストの環境図を活用した日案の事例を参考に、4歳児の日案を、環境図を使って実際に作成してみる。			
第13回		保育の記録・評価・反省について ・保育における記録・評価・反省の意義と重要性を学ぶ。			
第14回		保育・教育課程(保育カリキュラム)の展望 ・現代社会の保育ニーズ、保育制度の変化を踏まえて、社会に開かれた保育・教育課程(保育カリキュラム)のあり方について考える。			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	30点	論点を正しく捉えているか。		
	授業内評価	20点	学習への参加・授業態度(発表活動)		
		20点	提出期限等(提出日に遅れた場合は減点)		
備考		授業時における学びへの姿勢や言動を重視します。授業ノートを持参し、レポート記述及び指導案作成など誤字脱字や伝わりやすい表現、見やすさも評価の対象とします。			

(講義)		科目名:保育教養演習		講師:山田 哲史	
科目概要・目標		保育士や幼稚園教諭の採用試験を突破する上で是非ともしっかりと理解しておきたい専門教養の内容については、基本的に大学併修科目において学んできているが、それらの内容は試験対策という形に集約することでいよいよ採用試験の得点力へと繋がってくることを考えると、やはり試験対策としての学習形態を疎かにすることはできない。問題演習を反復しながら、採用試験に備えていく。			
教科書		指定なし。必要に応じてその都度、資料を配布します。			
期末試験		持ち込みなし。内容は後日発表			
回数		授業内容			
第1回		採用試験に向けて			
第2回		保育原理			
第3回		保育原理			
第4回		保育原理			
第5回		社会福祉			
第6回		社会福祉			
第7回		社会的養護			
第8回		社会的養護			
第9回		保育の心理学			
第10回		保育の心理学			
第11回		保育の心理学			
第12回		子ども家庭福祉			
第13回		子ども家庭福祉			
第14回		子ども家庭福祉			
第15回		教育原理			
第16回		期末試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	期末テスト		
	授業内評価	30点	授業態度		
備考		授業内容は変更になる場合があります。			

(講義)		科目名:教養演習Ⅰ(進路ガイダンスを含む)		講師:室山俊浩 仁井田 和也	
科目概要・目標	外部講師の話を聞くことで、就職活動についての意識を高めていく。 公務員試験や能力試験対策として問題演習を行う。				
教科書	配布資料を基に学習を進める				
期末試験	後日連絡				
回数	授業内容				
第1回	オリエンテーション				
第2回	問題演習				
第3回	ジモト就活について				
第4回	問題演習				
第5回	就労支援事業について				
第6回	就職活動について				
第7回	キャリアシームーツ 学内企業説明会				
第8回	問題演習				
第9回	法人等による出張授業				
第10回	問題演習				
第11回	法人等による出張授業				
第12回	問題演習				
第13回	法人等による出張授業				
第14回	問題演習				
第15回	問題演習				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点	授業で扱った問題から出題。持ち込み不可。		
	授業内評価	30点	授業態度、グループワーク等への参加・発言・積極性、提出物の内容、提出期限を評価		
備考		授業中の居眠り、スマートフォン等の無断使用、授業内容に関係ない行為、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は減点評価とします。			

(講義)		科目名:保育内容総論Ⅱ		講師:鈴木みどり	
科目概要・目標	幼稚園修了までに子どもが経験し、育つことが期待されている事項、すなわち「ねらい」を達成するための内容が保育内容である。この科目では、①保育内容(5領域)を総合的に把握する、②期待される事項がどのような活動を通して、経験されていくのかを実践とつなげて理解する、③子どもの発達段階にふさわしい主体的な活動を捉える目を持ち、適切なかかわりを考える、等を中心内容とする。 (実務経験を有する講師による授業の補足) 当科目は、保育士として公立保育所で主任も務めた講師のもと、保育現場における実例を交え、実践的な知識を学ぶ。				
教科書		横山文樹・駒井美智子『保育を学ぶシリーズ2 保育内容総論』大学図書出版			
提出課題	レポート設題1	子どもの発達段階による保育内容の違いを述べよ。 ＜ポイント＞幼稚園教育要領、保育所保育指針等も参考にすること。事例などによって具体的に説明することが望ましい。			
	学修のポイント1	低年齢児の園生活と保育内容について			
	学修のポイント2	保育内容の各発達段階(3歳、4歳、5歳)の特質について			
	学修のポイント3	遊びの生活と保育内容について			
	学修のポイント4	生きる力と園生活について			
	学修のポイント5	保育内容と変遷と今日的課題について			
	学修のポイント6	学校教育の基礎としての保育について			
期末試験		穴埋め問題試験			
回数		授業内容			
第1回		オリエンテーション 保育の基本			
第2回		遊びの生活と保育内容について			
第3回		生きる力と園生活について			
第4回		生きる力と園生活について			
第5回		保育内容と変遷と今日的課題について			
第6回		保育内容と変遷と今日的課題について			
第7回		子どもの発達段階による保育内容の違いについて			
第8回		子どもの発達段階による保育内容の違いについて			
第9回		低年齢児の園生活と保育内容について			
第10回		学校教育の基礎としての保育について			
第11回		子どもの発達段階による保育内容の違いについて			
第12回		学校教育の基礎としての保育について			
第13回		子どもの発達段階による保育内容の違いについて			
第14回		保育内容の各発達段階(3歳、4歳、5歳)の特質について			
第15回		期末試験			
第16回		科目終了試験			
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	20点	穴埋め問題試験		
	授業内評価	20点	レポート内容、提出状況		
		20点	授業態度		
		10点	実践の取り組み		
備考		3,4,5歳の発達段階を踏まえたピアノ弾き歌い、手遊び、リズム遊び等保育内容を取り入れ実技実践する。			

2026年度 前期

(講義)		科目名:保育実習事前指導Ⅱ		講師:高木芳子	
科目概要・目標	保育活動に直結する具体的な知識や技術を体得し、保育の現実的理解を深める。 指導計画の立案や保育演習を通して、実践的能力を高める。				
教科書	佐藤賢一郎『やさしい保育の教科書&ワークブック 保育所実習の事前・事後指導』北大路書房 田中亨胤監修・山本淳子編著『実習の記録と指導案』ひかりのくに				
期末試験					
回数	授業内容				
第1回	保育実習指導Ⅱについて理解する ① 保育実習Ⅱ(保育所)の意義について ② 振り返りの重要性について ③ 保育者の仕事の専門性について ④ 実習生の心得・実習生の基本的マナー 保育実習の時期及び準備等〔実習の手引き〕再確認				
第2回	実習課題の共有と明確化 保育所の1日を知る				
第3回	実習Ⅱの目標および実習記録の確認 ① 実習Ⅱの目標を考える ② 実習記録の確認				
第4回	保育士の社会的責任と保育士倫理 ① 保育所の社会的な役割 ② 保育士の倫理観「全国保育士会 人権擁護のチェックシート」				
第5回	保育所保育における養護の理念 ① 養護の定義について ② 「養護」の重要性を理解する ③ 「学びの芽生え」という位置づけを知る ④ 他者と関わる力の基礎を作る ⑤ 保育士の関わり的重要性を意識する				
第6回	保育所保育における幼児教育の理念 ① 幼児教育に共通するもの ② 保育所における「養護」と「教育」				
第7回	配慮の必要な子への関わり ① 発達の個人差 ② 「気質」の考え方 ③ 環境の工夫で困り感をなくす ④ 特別なニーズを必要とする家庭への支援				
第8回	子育て支援の必要性について ① 保育所保育指針における保護者支援の考え方 ② 実習生として何ができるのか				
第9回	1日の指導計画を立案する『実習の記録と指導案』活用 ① 責任実習指導案の作成手順 ② 全体的な計画と指導計画のつながり				
第10回	実習計画をもとに模擬保育を行う(1) 実習指導案作成のポイント・環境構成図等				
第11回	実習計画をもとに模擬保育を行う(2) 指導案の作成の実際				
第12回	実習計画をもとに模擬保育を行う(3) 指導案の基、模擬保育・振り返りと課題				
第13回	実習前の最終確認 ① 実習園とのオリエンテーション ② 実習支援室への連絡 ③ 実習中のストレス・体調管理 ④ 実習終了後について				
第14回	実習評価と実習の総括 模擬保育・振り返りと課題				
第15回	まとめ 振り返り, グループディスカッションによる自己課題の抽出				
第16回	期末試験				
成績評価	出席率	30点	75%以上の出席を必須とする。		
	期末試験	40点			
	授業内評価	10点	実地演習に向けての準備		
		10点	実地演習の当日の参加態度		
		10点	実地演習の振り返り		
備考					